

1 学校教育目標

・進んで考える子ども ・責任をもって働く子ども ・健康で明るい子ども ・礼儀正しい子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○人、物、価値との出会いを通して児童の夢や意欲を育む学校 ○安全安心に学べる環境のもと、児童が笑顔で登校できる学校 ○常に情報発信し、家庭・地域の信頼を得て、連携した教育活動に取り組める学校
○児童・生徒像	○学習規律が定着し、意欲的に学習する児童 ○よりよい集団を目指し、積極的に行動する児童 ○体力向上に努め、笑顔で生活する児童 ○道徳的判断力を身につけすすんで実践する児童
○教師像	○自らが模範であることを意識して、情熱と向上心をもって教育に取り組む教師 ○児童と向き合い、共感と励ましをもって成長を見守る教師 ○社会人、公務員として責任をもって職務遂行する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本校は荒川に近く、繁華街からも遠い静かな地域環境にある。児童数は約380人で各学年2学級である。明朗活発で素直な児童が多く、各学級とも比較的落ち着いた雰囲気の中で授業に臨んでいる。

学習面では、基礎学力の向上、個に応じた学習の充実を課題として、授業改善、朝学習や放課後学習、ICTの有効活用に取り組んでいる。前年度はリモート授業のあり方について研修を重ねてきたことで、ICT活用のスキルが教員、児童共に向上した。

生活面では平成23年度より取り組みを始めている3名人指導（挨拶名人、靴揃え名人、廊下歩き名人）を生活指導の軸としている。教職員の指導を踏まえ、日常生活の中で上級生が下級生を指導したり、模範を示したりすることが全学年への徹底に繋がっている。前年度は、異学年交流や全学年が一堂に会する機会が減少している中、ポスター作成や動画作成など高学年の自主的な取り組みを見ることができた。

教員は、若手が多く、校内での種々の研修はもとより、足立区教育研究会の研修や、小中連携教育を軸に指導力向上に努めている。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	社会力の育成	○	○	○	○	
3	健康な児童の育成	○	○	○	○	
4						

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学力の向上		区学力調査通過率 国語 78％以上 算数 84％以上 ワークテスト正解率平均 全学級 80％以上		区学力調査 国語 77.6％ 算数 79.6％ ワークテスト（12 月末まで） 国語 83％ 算数 83％		学力調査においては目標を下回ったが、ワークテストについては目標を達成した。全体としては記述力向上が課題であり、算数では「思考判断表現」、国語では「読解力」が課題であることが明確である。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
新	AI ドリルを利用した放課後学習	国語 算数	年 15回	【指導者】全教員 【目的】基礎基本の定着 【教材】AI ドリル	全校一斉の放課後学習時間の設定	予定の15回以上の実践	予定通り実施	適切な目標設定を考えたい。	○
継	朝学習	国語 算数	毎週 火水金 始業前 10分	【指導者】担任 【目的】基礎学力の定着 火 100マス計算 水 音読 金 読書	寺地基準による音読テスト 読書週間等の取り組み	音読、読書ともに80％以上が目標達成	音読、読書とも 80％以上の目標達成	学校平均では目標達成できているが学級別にみると未達成のところもある。	○

継	家庭学習の 充実	全児童	年3回 6月10月 1月	家庭学習強化月間とし、全 児童に対し宿題の提出率 を確認する	宿題提出状況 調査	宿題提出率90%	宿題提出率 88%	個別指導を充実さ せ、家庭の協力を呼 びかけていく。	△
継	授業改善	全教科	通年	・スタンダードの徹底 ・年3回の研究授業 ・ICT活用研修 (情報教育主任) ・外国語指導研修 ・道徳研修	・授業観察 ・学校評価	学校評価アンケ ート（児童）で 「授業がよくわ かる」「楽しい」 児童90%以上	学校評価アンケ ート（児童）で「授業がよ くわかる」「楽しい」 児童95%	楽しいと感じる部分 を学ぶ意欲に繋げ る。	◎

重点的な取組事項－２		社会力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感や社会貢献意欲の向上		生活意識調査による「自己肯定感」「言葉遣い」「人間関係」等の総合満足度を前年度より増加させる。	自己肯定感のみ前年度を下回った。	諸活動の中で概ね好ましい人間関係ができている。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
3 名人指導の徹底	年度末までに 3 種類の名人の割合が全校でそれぞれ 9 0 % 以上	・ 3 つの名人（挨拶名人、靴揃え名人、廊下歩き名人）の実践 年 2 回の到達度調査により実態を把握する。	調査上では 90%以上の到達	児童にマナー感があり、調査上の数値と実際の状況には乖離を感じる。	◎
自己肯定感、有用感、社会貢献意欲の育成	生活意識調査 ・ 自己肯定感69.2% ・ 言葉遣い90.8% ・ 人間関係92.5% 以上	学校行事 異学年交流 縦割り班活動	生活意識調査 ・ 自己肯定感 6 6 % ・ 言葉遣い 9 8 % ・ 人間関係 9 3 %	役割を果たすことで自信をもたせるような活動をさらに充実させた い。	△

外部との交流 出前授業の活用	各学年年間 3 回以上の 実践	幼稚園との交流 一般企業による授業 稲作リモート授業 高齢者施設との交流 社会科見学、生活科見学 SDG s 関連教育	高齢者施設訪問を除き、どの学年 も 3 回以上の外部との授業を実施 することができた。 例 L G B T 学習、 T G G 明日チャレ ジュニアアカデミー	出前授業等を積極的に 実施し、で児童の視野 を広げることができた。	◎
-------------------	--------------------	--	---	---	---

重点的な取組事項－ 3		健康な児童の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身の健康指導の充実		児童意識調査及び保護者学校評価の 関連項目達成と 9 3 % 以上	保護者肯定的回答 9 0 % 児童肯定的回答 8 3 . 2 %	意識調査や学校評価の 数値は下がっているが 健康指導自体はしっかり 実施できた。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康安全意識の強化	意識調査による「健康安全」 項目の満足度 9 2 % 以上	朝会、集会、委員会活動等をリン クさせた全校的な保健指導、体育 指導の徹底	意識調査関連項目平均 8 3 . 2 %	児童の意識がやや希薄 化している。	△
体力の向上	体力テストの結果で前 年度を上回る	体育集会 投力向上授業（5、6年） なわとび週間 持久走週間	体力テスト結果で昨年度を上回っ た種目が 5、下回った種目 1、同 等種目が 2 となった。	概ね向上している。シ ャトルランに見る持久 力向上が課題となる。	◎
家庭における健康安全 意識の強化	いきいき生活チェック シート健康安全関連項 目 8 0 % の達成	・保護者会、H P による家庭 への声かけと協力をお願い ・年 2 回（4 月、1 月）のチ ェックシート達成率調査	意識調査の健康安全関連項目で 8 4 % が望ましい回答であった。	保護者への啓発、児童 への指導を継続する。	◎
安全指導	交通事故 SNS トラブル 等についての無事故 を目指す。	安全指導の徹底 ・登校時に通学路、校門、昇 降口の見守り ・セーフティ教室や交通安全 教室の実施 ・情報モラル教室	安全指導を予定通り実施し、児童 は大きな事故なく、過ごすことが できている。	I C T 利用の日常利用 に伴い、情報モラルの 定着に一層努めてい く。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学習指導面については目標達成に至らなかったところがある。毎時間の授業の充実を図るとともに、朝学習、放課後学習等の今年度の取組を見直し、ICTを利用した学習と合わせて、読解力向上を目指した取組を行っていく。生活面においては3名人指導を中心とした取り組みのもと、概ねよい結果が得られた。今年度の取り組みを継続させ、社会力育成や健康指導の充実に努めたい。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

感染症による制限下の教育活動が続きましたが、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。また今年度の諸活動について、いただいたご意見につきましては次年度の教育活動に生かすべく、検討・努力してまいります。子供たちが日々充実した学校生活を送れますよう引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

次年度は今年度の終盤に来て徐々に制限も緩和されてきたことから、これまでの伝統的教育活動と新たな時代にあった教育活動を合わせて、また、外部との交流等も一層充実させ、子供たちにとって楽しい刺激のある教育活動を展開させていきたい。